

研究ノート

「英語語法の実態」

English Usage

北山 長貴 福井 慶一郎*¹

Nagaki Kitayama and Keiichiro Fukui

過去数十年間における言語変化、とりわけ英語の語法変化はめざましい。たとえば、I haven't been there *in* seven years.のように期間を表す *for* の代わりに *in* を用いるのは、もともと《米》の用法であるが、この用法は《英》でも一般化しつつある。また、*hopefully* は「希望に満ちて、希望して」の意味の語修飾副詞として用いるのが本来の用法であるが、今日では「うまくいけば、願わくば」の意味の文修飾副詞として用いる方がはるかに普通である：*Hopefully, it won't rain tomorrow.* 本稿では、このような変転きわまりない英語語法の実態を、語法辞典あるいは最新の英語辞書によって明らかにしてみたい。

afternoons/evenings/mornings

RHD² は、見出しの語を ‘every afternoon/evening/morning’ または ‘in the afternoon/evening/morning’ の意味で使うのは米国語法としている。-s は複数語尾ではなく、古英語に用いられていた副詞的属格 (adverbial genitive) の名残を示すものである。

He slept late and worked *afternoons*. — RHD²

この用法はすでに《英》にも入り込んでいる。

I work *afternoons* one week and *mornings* the next week. — MED²

ageing/aging

「年をとる」を意味する *age* の現在分詞形は、《米》では *aging*、《英》では *ageing* であるが、Wood & Flavell によれば、*ageing* よりむしろ *aging* を用いる傾向がますます強くなってきているという。

My grandfather is *ageing/aging* fast.

The population is *aging*. (=more people are living longer) — OALD⁹

aim

「...することを目指す」の意味で *to do* を伴うのは《米》、*at doing* を伴うのは《英》とされてきたが、今日では《英》でも *to do* がよく用いられ、標準語法として認められている。

He *aimed at gaining* first prize in the speech contest.

I *aim to be* a millionaire by the time I'm 35. — CALD⁴

MEU³ は、〈*aim + to* 不定詞〉の構文が好まれるのは、*intend, mean, plan* のような *aim* の同

1 三重大学名誉教授

義語の類推によるものであろうが、《米》の影響もあるかもしれない、と述べている。

alright

all right の誤った綴りであるとか、非標準語法であるとか、堅い書きことばでは使ってはならないといった批判があるが、RHD² は、「*alright* は書かれた対話や他の種類のくだけた書きことばでは普通の綴りである」と述べている。また Fieldhouse は、「イギリス諸島では *alright* が広く用いられ、北米ではなおさらそうである...」とさえ言っている。この語に対する違和感は完全には消え失せていないものの、くだけた書きことばではほぼ容認されていると見てよかろう。MWDEU は、下記のものを含む28個の用例をあげている。

Yes, I did get your letter *alright*.

any more/anymore

any more と *anymore* (主に《米》の綴り) は、ともに否定文に用いられて「もはや (...ない)」という意味を表す。

This coat doesn't fit me *any more* [*anymore*].

しかし《米》の方言では、*any more* と *anymore* が肯定文に用いられて、「近ごろは、最近は」(now, nowadays) の意味を表すことがある。Bryant によると、この用法はアメリカ合衆国の特定の地域で、教養ある人々の話しことばとして広く行われているという。

One can get terribly discouraged by reading the newspapers *anymore*.

apart from/aside from

apart from が《英》《米》の用法であるのに対し、*aside from* は主に《米》の用法である。どちらも「...はさておき、は別として」、「...に加えて、のほかに」という意味を表す。

Apart from eating habits, smoking is bad for your health.

Aside from the fifty-three killed, there were many wounded.

ところが田島松二氏は、「80年代後半の資料ではイギリス英語でも *aside from* が多少は見られるようになってきている」と述べている。筆者の手もとにも次のような用例がある。

I hardly watch any television, *aside from* news and current affairs. — CALD⁴

billion

《米》では「10億」(a thousand millions) を、《英》では「1兆」(a million millions) を表すが、1970年以降、《英》でも「10億」として用いられており、この語を「1兆」の意味で用いるのは、しだいに古い用法になりつつある。

The population of India is about 1.1 *billion*.

buy

Harper² は、*buy* を「(意見など)を受け入れる」(accept) の意味で使うのは《米》の俗語としているが、そのレーベルは時代遅れであり、今では標準語法となっている [MWDEU]。

I'm not *buying* any of that nonsense. — COB (I)³

The police will never *buy* that story. — LDEL C³

cannot help but do

「...せずにはいられない」を意味する *cannot help doing* と *cannot but do* との混交によって生

じた構文で、もとは《米》の略式体の用法であったが、現在では《英》の略式体でも使われている。

I *cannot help but* wonder: don't these people want to work, or are they unable to work?

consider

「AをBだとみなす」の意味では、通例、〈*consider A (to be) B*〉[Bは名詞・形容詞]の型をとる。

Everybody *considers* Mr. Jones an excellent teacher.

I don't *consider* myself to be a great athlete.

ときに〈*regard A as B*〉の類推で、〈*consider A as B*〉の型をとることがある。このような *consider* の用法については、誤用であるとか慣用的でないといった批判もあるが、標準語法として認められつつある。

These workers are *considered (as)* a high-risk group. — OALD⁹ [◆ *as* を用いる構文は、とくに受動態に多く見られる]

contact

「(人)に連絡する」の意味の動詞として用いるのは以前は激しく非難されていたが、現在では略式体の用法として認められている。get in touch with を1語で表現できる便利さが受けているのであろう。

Is there a phone number where I can *contact* you? — OSD³

debut

「(社交界などに)デビューする、初舞台を踏む」の意味の自動詞、「(商品など)を初公開する、紹介する」の意味の他動詞として用いるのは《米》であるが、最近では《英》でも *debut* の動詞用法が認められるようになった。

He *debuted* at Carnegie Hall in New York in 1944. — MED²

Ralf Lawren *debuted* his autumn collection in Paris last week. — L D C E⁶

dependant/dependent

《英》では *dependant* を「扶養家族」の意味の名詞として、*dependent* を「頼っている」の意味の形容詞として用いるが、《米》では *dependent* を名詞と形容詞のどちらにも用いる。

I have two *dependants*: my mother and my daughter.

Richard is still *dependent* on his parents.

NB《米》に刺激されて、《英》でも *dependent* が形容詞・名詞の両方に用いられるようになってきている [Todd]。

die

病気・飢え・老衰など直接的な原因で死ぬ場合は *of* を用い、けが・不注意など間接的な原因で死ぬ場合は *from* を用いる。

He *died of* lung cancer last month.

My sister *died from* brain injuries.

しかし、この区別は必ずしも厳密なものではなく、*from* の代わりに *of* を用いることも多い。CALD⁴ のあげている次の用例に注目されたい。

She *died of/from* hunger/cancer/a heart attack/her injuries.

上述のような前置詞の使い分けについて、Todd は「*of* よりもむしろ *from* の使用がふえて
いるが、多くの注意深い話し手は、このような用法をきらう」と述べている。

different than

とくに *than* のあとに節を伴う場合や、語句が省かれている場合に好んで用いられる。O
GELによれば、この語法は《米》では確立しているが、《英》でもまれではないという。

The old house looks *different than* I remember. — MWAL ED

He wears *different* clothes on Sunday *than* (he does) on weekdays. — OGEL

discover/invent

discover は今までだれにも知られていなかったものを見いだすことであり、*invent* は今ま
でになかったものを新しく考え出すことである。

Marie Curie and her husband *discovered* radium in 1898.

James Watt *invented* the steam engine.

けれども Wilson は、「今日では *discover* と *invent* はときとして交換可能である」と言って、
次の用例をあげている。

During their research they *discovered* a biodegradable plastic. [◆ *invented* を用いる方がよい]

drowned/be drowned

「おぼれ死んだ」という意味の場合、《米》では *drowned* を用い、《英》では *be drowned* を
用いるのが通例とされてきたが、OALD⁹, CALD⁴, MED², LDEL C³ などのイギリ
ス系の辞書は *drowned* の用例のみをあげているので、《英》でもこの表現を用いるのが一般
的になりつつあるようだ。

The fishermen *drowned* when their boat overturned. — LWD²

Hundreds of people *were drowned* when the ferry sank. — LASD⁵

NB *be drowned* はときに「溺死させられた」という殺人の意味を表すこともあるので、注
意を要する。

each other/one another

each other は2人 [2つ] について、*one another* は3人 [3つ] 以上について用いるべき
だとされてきたが、実際には両者は交換して用いられることが多い。LDEL² は、このよ
うな区別は歴史的根拠がなく、ほとんど役に立たない、と言っている。

The three children liked *each other*. — CULD

Liz and I have known *one another* for years. — LDCE⁶

NB LDEL C³ は、*one another* を *each other* と同義であるとし、They hit *one another*.とい
う用例をあげている。

event, in the

in the event of his failure の代わりに *in the event* (that) he fails を用いるのは、もと《米》であっ
たが、この用法は《英》にも侵入している。

In the event she dies, her daughter will take over her work.

しかしLGEUは、*in the event that* I die は堅苦しく、if I die の冗漫な表現である、と述べ

ている。

following

「...のあとで」(after)、「...の結果として」(as a result of) の意味の前置詞として用いられることがある。とくに「...のあとで」の意味で用いるのは誤りであるとして、この用法に反対する人もいる [OGEL]。

He died on October 23, *following* several years of illness. — CLO

Following the riots, many students have been arrested. — OWD⁴

forbid

「Aに...することを禁じる」の意味では、通例、〈*forbid A to do*〉〈*forbid A's doing*〉の型をとる。

The doctor *forbade* me to eat meat.

I *forbid* your contradicting me.

ときに 〈*forbid A from doing*〉の型も用いられるが、この構文に難色を示す文法家もいる。MEU³は、問題が未解決のうち、これに代わる構文か *prohibit* を用いるのが賢明であろう、と言っている。

He was *forbidden from* leaving the country. — LASD⁵

free, for

もと《米》の用法で、俗語あるいは戯言的であるとして非難されていたが、現在では《英》でも「無料で」(*free of charge*)の意味でよく使われている。

He fixed the car *for free*. — LSD⁵

The company said it would do the job *for free*. — COB (I)³

guess

「...と思う」(*think*)の意味で使うのは主に《米》の略式体の用法である。最近では、《英》の略式体でも使われるようになった。

I *guess* you're tired after your long journey. — OSD³

I *guess* this is the best way to do it. — LLA²

half

「1年半」「150万」は、それぞれ次のように表されるが、現在では後者の方が普通である [LGEU]。

a year and a *half/one* and a *half* years

a million and a *half/one* and a *half* million

have been/have gone

「...へ行ったことがある」という経験を表すには *have been* を用いるのが普通である。

I *have been* to France three times.

一方、《米》では経験を表す場合でも、しばしば *have gone* が用いられる。

Have you ever gone swimming at Coney Island?

No, I haven't, but I *have gone* swimming at Jones Beach. [英語語法大事典]

he or she

anyone, everyone のような不定代名詞、child, student, person のような両性名詞は *he* で受けるのが、これまでの慣例であった。

Everyone should do what he thinks best.

ところが最近では、この用法が性差別的であるとみなされ、普通の書きことばでは *he or she* が用いられるようになった。

A person is said to have AIDs when he or she has less than two hundred T-cells per milliliter of blood.

hopefully

「希望に満ちて、希望して」の意味の語修飾副詞として用いるよりも、「うまくいけば、願わくば」の意味の文修飾副詞として用いる方がはるかに普通であることは、本稿の冒頭で述べた通りである。

Hopefully, we'll arrive before dark. — OAAD

Hopefully, we'll be there by dinnertime. — LDEL C³

このような *hopefully* の用法に反対する人は少なくないが、《米》《英》ともに話しことばとして確立している。

in (= for)

not, first, last, only や形容詞の最上級とともに用いて、「...の間、のうちで」という意味を表す場合、《米》では *in*、《英》では *for* が用いられるが、最近では《英》でも *in* の使用が珍しくなくなってきている。

I haven't laughed so much in years. — MED²

It's the first letter I've had in ten days. — OALD⁹

in (the) light of

「...を考慮して、考え合わせて」の意味で、*in light of*, *in the light of* の両形が用いられるが、前者は《米》、後者は《英》である。

The highway has been closed in light of heavy snow. — LDAE⁵

This drug has been withdrawn in the light of new research. — CLO

けれども今日では、《英》でも *in light of* という形式がときどき見られるようになってきている [田島松二]。筆者の手もとには、次のものを含む4つの用例が集まっている。

In light of the tragic events, tonight's concert has been cancelled. — LASD⁵

inside of

「...以内に」(within) の意味で用いるのは主に《米》の略式体である。この用法はすでに《英》にも入り込んでいるが、まだ標準語法とは認められていない [MEU³]。

The results should be known inside of an hour. — MWAL ED

I should be back inside of two hours. — CACD

just

「たった今 (...したばかり)」という意味の場合、《英》では現在完了形とともに用いられるが、《英》でも《米》の影響を受けて過去時制とともに用いられるようになった [LGEU]。

I've *just* heard the news.

I *just* heard the news.

know-how

「技術情報、専門的知識 [技能]」の意味でよく使われる。もと《米》の用法であるが、19世紀の末以来、《英》でも使われるようになった。*knowhow* と1語に綴られることもある。

We are looking for someone with technical *know-how* in this field. — OAD

There was a lack of managerial and technical *know-how* in the steel industry. — LLA²

listen to

《米》では、hear の類推から「Aが...する [している] のを聞く」の意味を表すのに〈*listen to A do/doing*〉の型を用いることがある。この型は、「米国における破格用法」(American barbarism) と考えられているが、現在では《英》でも標準語法になっている [CAU]。

Benjamin *listened to* him *drop* his coin into the telephone and *dial*.

We *listened to* the band *playing* in the park. [以上『英語基本動詞辞典』より]

look at

《米》では、see の類推から「Aが...する [している] のを見る」の意味を表すのに〈*look at A do/doing*〉の型を用いることがある。この型は、listen toと同様、《英》では「米国における破格用法」と考えられているが、現在では《英》でも容認されている [CAU]。

Look at that boy *jump*!

Just *look at* the rain *coming down*! [以上『英語基本動詞辞典』より]

media

「マスメディア」(mass *media*) の意味の *the media* は、単数動詞または複数動詞で受ける。

The media was accused of influencing the final decision. — OAAD

The media always *take/takes* a great interest in the royal family. — OWD⁴

NB LDCE の第5版 (2009) には、「*media* の後ではときどき単数動詞が用いられるが、複数動詞を用いる方がよい」とある。しかし、この注記は第6版 (2014) では削除されている。

nights/days

nights を 'at night' または 'every night' の意味で用いるのは、とくに《米》の略式体である。この用法はすでに《英》にも侵入している。

I work *nights*, so I'm usually asleep during the day. — LDCE⁶

days も、'every day' または 'during the day' の意味で用いられる。

He goes to school *days* and works as a watchman *nights*. — Wilson

none

〈*none of* + 複数名詞〉の構文は単数・複数のどちらにも扱われるが、今日では複数扱いされることが多くなってきている。また、話しことばでは単・複両用扱い、書きことばでは単数扱いするという LAAD² の指摘もある。

None of my friends like baseball. — LSDAE²

None of his friends lives nearby. — MED²

overly

「あまりにも、とても」(too, very)の意味で用いるのは主に《米》であるが、現在では《英》でもしばしば用いられている。とくに否定文中での用法が多い。

It is a problem, but we are not *overly* concerned about it. — LDAE⁵

I'm not *overly* fond of pasta. — OALD⁹

presently

「まもなく、やがて」(soon)の意味と、「現在では」(now)の意味の2つがあるが、後者の意味で使うのは主に《米》およびスコットランド英語の用法である。

Nancy will be here *presently*.

しかし《英》の話し手は、《米》の話し手と同様、*presently* を 'soon' よりもむしろ 'now' の意味で使いはじめている [LDEL C³]

They are *presently* on holiday. — LWD²

The island is *presently* uninhabited. — COB (A)⁸

protest

「(..に対して)抗議する」の意味では、*protest* の後に「*against* + 名詞」を伴う。

Henry *protested against* his low mark.

《米》では、*protest* を上記の意味の他動詞として用いることができる。この用法は《英》にも徐々に侵入しつつある。

The students were *protesting* the war. — LWD²

through

《(from) A *through* B》の形式で「AからBまで(ずっと)」の意味で使うのは主に《米》であるが、《英》でもよく知られている [MEU³]。

The store is open Monday *through* Friday. — CLO

I worked there *from* May *through* September. — *ibid.*

NB *from* Monday to [till] Friday では、金曜日を含むか否かややあいまいである。

transport/transportation

《英》では、*transport* を「輸送、運送；輸送 [交通] 機関」の意味の名詞として用いる。

The *transport* of goods by air costs a great deal.

Do you have your own *transport*? (=Do you have your own car?)

《米》では、*transportation* を上記のいずれの意味でも、また「運賃」の意味でも用いる。

Buses are the main form of public *transportation*. — LDAE⁵

Transportation is not cheap in major American cities. — WDAE

NB 《英》でも *transportation* が増加しつつあるが、まだ多くの人々はこの用法にまゆをひそめている [Todd]。

wait on

wait for の代わりに用いるのは米国南部・中部地方の方言とされているが、現在では《英》でもごく普通に用いられている。

The lawyers are *waiting on* the jury's verdict. — CALD⁴

We're *waiting on* the blood test results. — LDCE⁶

way

副詞・前置詞の強意語として「とても、ずっと；遠くに」の意味で使うのは、もと《米》の略式体であるが、この用法は《英》でも容認されている。

This skirt is *way* (= a lot) too short. — OAAD

She lives *way* out of town. — LDCE⁶

welcome

You're *welcome*. (どういたしまして) は、お礼のことばに対する《米》での決まり文句であるが、現在では《英》でも使われている。たとえば COB (A)⁸ には、次の用例が載っている。

'Thank you for the information.' 'You're *welcome*.'

NB WBD によると、この表現はイギリス北部の一部で普通に用いられているという。

《引用文献》

- [Bryant] *Current American Usage*. 1962.
[CACD] *Cambridge Academic Content Dictionary*. 2009.
[CALD⁴] *Cambridge Advanced Learner's Dictionary*. 2013.
[CAU] *A Dictionary of Contemporary American Usage*. 1975.
[CLO] *Cambridge Learner's Dictionary (semi-bilingual Version)*. 2004
[COB (A)⁸] *Collins COBUILD Advanced Dictionary of American English*. 2014.
[COB (I)³] *Collins COBUILD Intermediate Learner's Dictionary*. 2014.
[CULD] *Chambers Universal Learner's Dictionary*. 1991.
[Fieldhouse] *Everyman's Good English Guide*. 1983.
[Harper²] *Harper Dictionary of Contemporary Usage*. 1985.
[LAAD²] *Longman Advanced American Dictionary*. 2007.
[LASD⁵] *Longman Active Study Dictionary*. 2010.
[LDAE⁵] *Longman Dictionary of American English*. 2014.
[LDCE⁶] *Longman Dictionary of Contemporary English*. 2014.
[LDEL²] *Longman Dictionary of the English Language*. 2005.
[LDELC³] *Longman Dictionary of English Language and Culture*. 2005.
[LLA²] *Longman Language Activator*. 2002.
[LGEU] *Longman Guide to English Usage*. 1988.
[LSD⁵] *Longman Study Dictionary*. 2010.
[LSDAE²] *Longman Study Dictionary of American English*. 2011.
[LWD²] *Longman WordWise Dictionary*. 2008.
[MED²] *Macmillan English Dictionary*. 2007.
[MEU³] *Fowler's Modern English Usage (Revised Third Edition)*. 2004.
[MWDEU] *Merriam-Webster's Dictionary of English Usage*. 1994.
[MWALD] *Merriam-Webster's Advanced Learner's English Dictionary*. 2008.
[OAAD] *Oxford Advanced American Dictionary*. 2011.

- [OAD] *Oxford American Dictionary*. 2011.
- [OALD⁹] *Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*. 2015.
- [OGEL] *The Oxford Guide to the English Language*. 1989.
- [OSD³] *Oxford Student's Dictionary*. 2013.
- [OWD⁴] *Oxford Wordpower Dictionary*. 2012.
- [RHD²] *The Random House Dictionary of the English Language*. 1993.
- [田島松二] 『コンピュータ・コーパス利用による現代英米語法研究』 1995.
- [Todd] *The Cassel Dictionary of English Usage*. 1997.
- [WBD] *The World Book Dictionary*. 2 vols. 1987.
- [WDAE] *Webster's Dictionary of American English*. 1997.
- [Wilson] *The Columbia Guide to Standard American English*. 1993.
- [Wood & Flavell] *Current English Usage*. 1990.
- 『英語基本動詞辞典』（小西友七編）1986.
- 『英語語法大事典』（石橋幸太郎編）1997.